



IIPS

第7回中曽根康弘賞受賞者（2011年6月30日授賞・対外発表）

1 松田康博（まつだ やすひろ）（優秀賞）

年齢：1965年11月29日生れ（45歳） 国籍：日本

所属：東京大学東洋文化研究所准教授

選考理由：国共合作から蒋介石政権発生までの中国の動き及び中国と台湾との関係、台湾政治の研究を学問的見地から地道に行うとともに、東アジア及び日本の安全保障研究の第一線においても、日本の安全保障政策を適切に外国語で発信するなどの活動を行ってきた。これらの研究や活動はこれまでにない観点から行われており、緊迫しがちな東アジア地域の関係を客観的、冷静に分析するものとして、日本及び近隣諸国での関係や役割についての提言を与えるものであり、東アジア地域の安定と発展に結びつくものとして、高く評価されるものである。

2 劉傑（りゅう けつ）（奨励賞）

年齢：1962年9月2日生れ（48歳） 国籍：中国

職業：早稲田大学社会科学部教授

選考理由：日中間に横たわる歴史認識問題について、その問題の構造を解きほぐし、日中間の対話の場を形成し、実際に対話を進め、日中どちらかに立場を偏らせることなく、粘り強く日中双方の社会に発信していく活動を行ってきた。これらの活動は日中間の文化交流の面だけではない、東アジアの安全を地道に支えていくものであり、これらの活動による日中相互理解の促進を通じ、アジア太平洋地域の平和と繁栄の基礎となるべき土台作りへの貢献は、今後、大いに期待されるものである。

3 Shamshad Ahmad Khan（シャムシャド・アフマド・ハーン）（奨励賞）

年齢：1980年1月18日生れ（31歳） 国籍：インド

所属：インド戦略研究所研究員

選考理由：日本研究を基礎において、日印関係及び南アジア地域での安全保障についての研究を行い、今後の南アジア地域の安全保障を考える上で、それぞれの地域や国が行うべき役割や、日本とインドを中心とした南アジアとの相互協力についての提言を行ってきた。これは今後の南アジアと日本との協力関係、相互理解を促進する上で、これらの研究は重要な役割を果たすべきものであり、高く評価されるものである。